

(第7号様式の2)

事業報告書

1 事業名	那覇市多文化共生ネットワーク構築 ～シェアから始まり、つながる、広がる～
2 事業実施期間	令和2年 8月 ～ 令和3年2月
3 事業目的	<p>① 事業計画に至る背景（コロナ禍における現状と課題）</p> <p>沖縄県内には、約 21,000 人、那覇市には、約 5,600 人の外国人が暮らしている。コロナ禍において、外国人の様々な現状が浮き彫りになってきた。専門学校に通う留学生は、飲食店でのアルバイトの仕事が激減し収入がなくなったうえ、母国はロックダウンで送金の受け取りが不可能になり、経済的にも精神的にも不安定な状態になった。在留 20 年以上の永住者のひとりからは、「外国人も特別定額給付金の申請ができるのかわからない」と、情報共有を求めるメールが届いた。飲食店を経営する外国人は、テイクアウト販売の広報ツールに戸惑い、登録の仕方を教えて欲しいと訴えた。外国人市民が、地域で気軽に相談できる場所や人的サポートが少ないことや生活、経営に直結する情報は言葉の壁が高く、公平に届いていないことは、コロナ禍において、心配や不安が増幅されていた。まさに、外国人が日本で暮らすにあたって直面する言葉の壁、制度の壁、心の壁がコロナ禍で浮き彫りになった状況について見過ごすことはできず、地域市民で考えることから始めようと思立った。</p> <p>②事業を行う必要性（ニーズ）</p> <p>コロナ禍において、またアフターコロナにおいて、外国人市民にもわかりやすい情報発信や伝達、また人的ネットワークの必要性が明らかになったいま、普段からのネットワーク構築がキーである。そこを一部の有志、ボランティアに頼るのではなく、地域づくり、連携事業として取り組む必要がある。行政、地域の関係団体、外国人を支援している団体や個人、日本語サークル、そして外国人の自助グループ等が連携し、見えている現状や課題を共有することで、地域のサポートネットワークの構築の必要性やステップを作っていく。那覇市に住む外国人市民も気軽に相談、サポートが得られる安心して暮らせる地域でありたい。また、2020年6月には那覇市役所市民生活安全課に外国人相談窓口が開設され、那覇市の広報紙でも「多文化共生」が発信された。今後、行政と市民との連携の必要性は、より高くなっていくと考える。</p> <p>③市民や地域の公益性（社会貢献度）</p>

	<p>那覇市には、令和2年6月現在約5,600人の外国人市民が暮らしている。6月からは那覇市役所内に外国人相談窓口が開設された。行政窓口と地域の協働により、ひとりひとりの多様な個性が尊重され、人権が守られる「多文化共生」のまち「那覇市」の地域づくり、人づくりにつながっていくと考え、アフターコロナの那覇市の未来につなげたい。また、「誰ひとり取り残さない」SDGsの取組としても公益性は高いと考える。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 事 業 内 容</p>	<p>① 具体的な実施内容</p> <p>【外国人市民へのコロナ禍における状況調査・ヒアリング】</p> <p>〈内容〉生活状況、経済変動状況、情報発信についての実態を調査する。そのための調査内容を検討、作成し、広報の手立て、ツールを検討し実施する。</p> <p>〈人数〉調査アンケート実施・回収 432 通</p> <p>〈対象〉那覇市中心に県内在住外国人</p> <p>〈実施方法〉WEB アンケート、紙媒体アンケート、対面やオンラインでの調査</p> <p>〈期間〉令和2年11月～12月12日</p> <p>〈実施場所〉県内（那覇市内を主に）日本語学校、専門学校、飲食店、公園、</p> <p>〈結果〉別紙参照</p> <p>【多文化共生ネットワークミーティングの開催】</p> <p>地域で外国人に関わる団体や行政、企業等との顔の見える関係性の構築を目指し、情報・課題の共有し意見交換をおこなった。</p> <p>〈内容〉</p> <p>(1) 9月26日（土）午前10時～12時半：約30名 コロナ禍できこえてきたこと、2名から取り組み事例の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのベトナム人サポート事例：カラオケがむしゅら 親泊昌弥 ・ネパール人コミュニティでの活動：沖縄ネパール友好協会 オジャラックスマン <p>(2) 12月5日（土）午前10時～12時半：約25名 地域で起こっていること、取り組んでいることを共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の現状と夢：留学生OBネウパネ スザン ・地域コミュニティとしての教会：小祿カトリック教会 名城ジョイ ・地域の部活動：那覇市若狭公民館ユーチュー部 新垣このみ、宮城潤、ホンハー ・技能実習生って？：NAGOVINA グエンニエン ・地域の日本語サークル：なは日本語サークルどうしぐわー ファンカルロス <p>(3) 2月20日（土）午前10時半～12時：約20名 外国人アンケート調査結果の共有、今後の連携、ネットワークミーティングについて意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について（別紙参照） ・多文化共生ネットワークミーティングの必要性や今後について検討し、継続実施していく方向性を確認した。

<場所>なは市民活動支援センター会議室

<実施方法>(1) (2) 対面、参加型ワークショップ形式

(3) オンライン (ZOOM 会議)

<参加団体>市民活動団体・行政・企業・個人メンバー (延べ 70 名)

那覇市市民生活安全課、沖縄ネパール友好協会、沖縄ミャンマー友好協会、カラオケがむしゃら、みつこばあば、なは日本語サークルどうしぐわー、那覇市若狭公民館、オキナビグローバル (ジャンボツアーズ)、那覇市社会福祉協議会、プンガポンガ、株式会社沖縄コングレ、NPO 法人沖縄 NGO センター、福岡入国在留管理局那覇支局、総務省沖縄行政相談センター、プロアライランス、フクシカケル、小禄カトリック教会、アジアンダイニング、環琉オフィス、株式会社ニッチ、NAGOVINA、JICA 沖縄、浦添市役所国際交流課、宜野湾市市民協働推進課、那覇市まちづくり協働支援課、多文化共生マネージャー、多文化共生研究者、沖縄在住支援機関、那覇市市議員、那覇市保健所、外国人市民 (学生、社会人、文化ビザ滞在者)

<参加者コメント>第 3 回ネットワークミーティングにて

- ・ fu ふ! の強みは多様性だということに改めて気づきました。
- ・他の参加者の方もおっしゃっていましたが、このミーティング自体が参加者の多様性が反映されていて、良いなと思いました。
- ・実際にミャンマーやネパール出身の在住外国人の方々、また支援している方々と知り合うことができ、彼らが沖縄で住みやすい環境を作り出すことの必要性をより認識しました。
- ・外国人の方々が、日本人と関わりたいと思っているけど、なかなか機会がない、また逆に日本人も外国人の方々のためにイベント開くけど情報が届いてないというミスマッチがあることを知った。
- ・なかなか声が届きにくい留学生や技能実習生もこういった会議に参加されていてもいいなあと思いました。
- ・情報配信が乏しく、もっともっとみんなにこの活動を知ってもらいたい。
- ・このミーティングから名護市で就労に困っている技能実習生とご縁が得られた
- ・定期的にこのようなミーティングや情報交換会などはあったほうが良いと思います。
- ・sns 上で県内の外国人関連情報を気軽にアップし合えるサイトがあればいいなと思いました。
- ・とても有意義でした、ありがとうございました！引き続きどうぞよろしくお願ひします。

【フードサポート】

那覇市の MUG ムグフードプロジェクトから託された食料や県民からの寄付を那覇市在住の留学生と中部在住の技能実習生へ届けた。

キーパーソンとしてネパール出身の元留学生、教会神父、大学サポート担当者と調整を行い、実施した。

<日時>11月29日(日)、12月6日(日)、1月28日(金)、1月29日(土)

<場所>那覇市テンプス館ホール、沖縄市胡屋教会、那覇市若狭公民館、沖縄国際大学

<人数>留学生60名、技能実習生100名、留学生69名

① 本事業を通しての気づきと提案

- コロナ関連情報・生活情報を多言語化し、紙媒体・インターネット(専用サイト・SNS等)を通じた積極的な情報発信
- 必要な人に①のような必要な情報がきちんと届く仕組み作り
 - ・個人間のネットワーク、関連する団体・部署・企業と個人のネットワーク連携
 - ・個人間の繋がりを維持するため、行政・企業等からのサポート
 - ・市町村のみならず、県でも在住外国人が抱える問題等に対応できる施設(場所)の新設または既存施設(場所)・団体の活用(就労・コロナウィルス・教育・子育て・給付金/補助金・日本語教室等に関する情報共有や相談等)
- 気軽に繋がり、相談できる人材の育成と確保と気軽に行ける場の創出と確保
- 自分とは異なる他者と共に生きていくため、多様な「外国人」「日本人」が出逢い対話を通し、共に学び合う場・機会を市町村の地域レベルで継続的に創る。地域住民との顔の見える繋がりが有益な情報を受信・発信でき、参加者のセーフティネットともなる。
例) 自治体にある国際交流協会や地域施設を活用し、参加者は「外国人」も「日本人」も対象とした交流や学びのイベントや教室、テーマや趣味を学ぶ場の継続的な開催

② 事業振り返り～ワタシたちの気づき～

- コロナ禍で、各々の状況においては迅速な対応が求められる。調査に時間がかかり、声や情報はすぐに古くなってしまうと必要な対応も遅れをとる。アンケート調査の限界も感じた。
- すぐに声を届け合い、動き出せるようサポートしあえるよう、日頃からのネットワーク・コミュニティの構築が不可欠である。
- 調査では「アンケートで私たちの状況・提案等の声を聞いてくれてありがとう」というコメントを複数もらった。沖縄での生活において声をあげにくい、あげても届きにくい、聞いてもらう環境がないという状況が考えられる。
- 多様な参加者で構成され、特定のテーマや興味関心で繋がるサークルのような気軽に緩くコミュニティーを創りたい。(オンラインも利用)

	<p>➤ 今回、一人ひとりの声を多く集められた。この多様な視点からの声を行政、企業、関連団体、市民県民と共有・連携し、より豊かな沖縄県の暮らしを考え創り続けていきたい。</p> <p>そのため、那覇市多文化共生ネットワークミーティング（仮）を定開催し、中長期的プラン「那覇市みんなのための多文化共生プラン案」（仮）の提案を検討したい。</p> <p>➤ 企画提案時の事業計画書に事業を一言で表現すると、「地域の外国人市民に関わる団体をネットワークする」と記した。事業終了にあたり、本事業を活用してネットワーク構築への一歩が踏みだせたことを感謝したい。</p> <p>③ 事業の周知方法</p> <p>ホームページ、Facebook を開設し周知した。</p> <p>調査内容を共有する機会には事業について触れ、周知した。</p> <p>④ コロナウィルス感染症対策（感染拡大防止に対する対応）</p> <p>第1回・2回の対面での多文化共生ネットワークミーティングやアンケート・ヒアリング調査開催時には、手指消毒の配置やマスク着用の依頼、十分な換気を行い、参加者の健康状態の確認等を行った。第3回多文化共生ネットワークミーティングについては、緊急事態宣言発令中でもあり、オンライン ZOOM 会議で開催した。</p>
<p>5 事業 効果 ・ 今後 の展 開</p>	<p>① 期待される効果</p> <p>地域の外国人市民に関わる団体がつながり、現状や課題、また取り組みが共有されることで、地域のネットワークとしての信頼関係が築かれ、ひいては誰もが住みやすい多文化共生への意識が高まり、一人ひとりの積極的創造的な行動の変容が期待される。</p> <p>また、団体として連携して取り組むことで、多文化共生の地域づくりとしての取り組むスピードや効果が高まると考える。</p> <p>② 次年度以降の展開について</p> <p>本事業で実施できた多様な団体で構成された多文化共生ネットワークミーティングを継続して実施しながら、より地域の課題を掘り下げ、共に改善にむけて取り組む多文化共生の地域づくりを目指す。</p> <p>共同でワークショップ、シンポジウムや多文化共生イベントの開催の可能性も考えたい。</p>

6 その 他反 省点 等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのオンライン会議での企画内容の検討、アンケート調査内容についてのの検討・吟味等、合意形成に、時間を要した。 ・対面でのヒアリング調査の進め方を練る必要があった。 ・ヒアリング調査協力者にもネットワークミーティングに参加してもらった流れをつくることができたなら、ひとりの声が地域の課題、自分ごとになったのではないか。ファシリテーションとして検討したい。 ・地域へ発信するという点においては、これからの課題である。 ・関係機関、担当課への連絡や調整が遅くなることがしばしばあった。 	
7 ス ケ ジ ユ ー ル	時期	内容（場所・参加対象・人数など）
	8月	交付決定、事業企画会議、ヒアリング・アンケート内容の検討、作成開始
	9月	企画検討、ネットワークミーティングへの参加団体、参加者、ゲストスピーカー連絡調整、
	9月26日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回多文化共生ネットワークミーティング①開催（那覇市民活動支援センター、外国人に関わる行政、企業、市民活動団体、個人30名）
	10月～	<ul style="list-style-type: none"> ・調査アンケート11言語翻訳作成依頼、連絡調整、ホームページ掲載依頼整備、アンケート広報用のチラシ作成
	11月～ 11月29日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査アンケート回答依頼・広報、アンケート、外国人キーパーソンへのヒアリング・企画会議、ヒアリング実施（名護市、那覇市）、アンケート実施（県内全域）、アンケート回答集計、 ・第2回ネットワークミーティングむけての内容検討、関係団体への参加案内、ゲストスピーカーとへ連絡調整 ・フードサポート（那覇市アジアダイニング→テンプス館ホールでのキャリアサポートセミナー参加のネパール人留学生60名）
	12月～ 5日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回多文化共生ネットワークミーティング（なは市民活動支援センター、外国人に関わる行政・市民活動団体、企業参加者20名）
	12月～ 12月6日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査アンケート広報、回収、まとめ（432通） ・フードサポート活動（沖縄市胡屋教会、ベトナム語のミサ参加のベトナム人技能実習生約60名）

	1月～ 1月29日（金）30日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査アンケート回収、まとめ ・フードサポート活動（沖縄国際大学留学生・日本語学校専門学校留学生 61名）
	2月20日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生ネットワークミーティング③開催（オンライン ZOOM 会議、那覇市民活動支援センターから発信、20名）
	2月28日（日）	<p>【報告書提出】 なは市民活動支援センターへ</p>
	3月20日（日）	<p>【成果発表会】なは市民活動支援センターにて2人参加予定</p>
<p>8 事業実施に関する支援団体の有無（該当する箇所に<input checked="" type="checkbox"/>等を記入してください。）</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 行政との協働 <input checked="" type="checkbox"/> 企画に協力 <input checked="" type="checkbox"/> 資金提供 <input checked="" type="checkbox"/> 告知などの協力 <input type="checkbox"/> 無し </p> <p>協働の内容</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・事業（ネットワークミーティング）への参加 ・事業（ネットワークミーティング）への参加を他団体に広報 ・共同事業として場所の提供 ・助成 </div>		